

子どもたちの思い 受け止める

子どもの支援団体で作る「東日本大震災子ども支援ネットワーク」が開設したウェブサイト「子どもの目・子どもの声」に、被災地の子どもからメッセージが続々と寄せられている。切実な思いが記されたメッセージはこれまでに約80通超に。給食などを求める声が、解決につながったケースもある。【鈴木敦子】

「はやくぶつうの家に
すみたい。かせつはあつ
い。家がすっかりなくな
りショックです」(岩手県



岩手県大槌町の青空座談会
には、教師や保育士、保
育者が参加。森田明美教授
(中央)に促され、子ども
支援について話し合った
＝日本ユニセフ協会提供

■ 支援ウェブサイト開設 ■

・小3)「早く家に戻
りたい。友達に会いた
(福島県・小4)」「校
庭で遊べたらいいのに
な。マスクと長袖は暑く
て苦しい(同・小2)」「
「原発を止める。俺は30
年後は40歳、そんな時に
ガンになってられるかよ
(同・小4)」。子
どもならではの率直な気
持ちは記されている。
同ネットは国連NGO
「子どもの権利条約総合
研究所」や日本ユニセフ
協会などが結成した。5
月からメールでメッセー
ジを集め始めた。事務局
長の森田明美・東洋大社

メール募集「我慢のはけ口が必要」

教育学教授は「子どもた
ちはすごく我慢している
のに、大人も生活が大変
で応える余裕がない。我
慢はいずれ『大人への不
信』になる。はけ口が必
要だと思った」と、狙い
を語る。
メッセージには、遊び
場や給食のおかずを求め
る声もある。日本ユニセ
フ協会は要望を受け、岩
手県山田町の幼稚園と保
育園におやつを提供する
ようになった。
メッセージを施策につ
なげるため、同ネットは
子どもの希望をもとにし
た意見書を復興構想会議

に提出した。6月末には、
岩手県大槌町で住民や教
育関係者らと「子どもた
ちのための復興支援を考
える青空座談会」を開い
た。今後も行政や民間団
体と連携し、具体的な支
援を目指す。

メッセージには前向き
なものも多い。「山田町
を元気にする(岩手県・
小1)」「日本全体で震
災に負けず頑張りましょ
う(同・中1)」。引
き続きメッセージを募集
中。あて先のアドレスは
kodomo@shinsai-
kodomoshien.net